

小学校生活

指導のポイント

教科の特質を理解し、2学年間を見通した指導計画を作成、実施します。また、児童の思いや願いを引き出し、児童が没頭できるような活動や体験を通して、気付きの質を高める学習活動を展開します。

評価のポイント

評価の妥当性や信頼性を高めるために、児童一人一人の気付きを丁寧に見取り、設定した評価規準を踏まえ、評価の判断の根拠を明確にします。

1 生活科における内容のまとまりと単元計画

生活科における「内容のまとまり」は下記のとおりとなります。

【内容のまとまり】

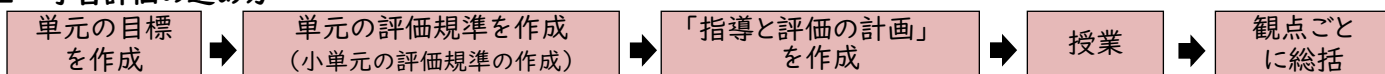
- 内容(1) 学校と生活
- 内容(2) 家庭と生活
- 内容(3) 地域と生活
- 内容(4) 公共物や公共施設の利用
- 内容(5) 季節の変化と生活
- 内容(6) 自然や物を使った遊び
- 内容(7) 動植物の飼育・栽培
- 内容(8) 生活や出来事の伝え合い
- 内容(9) 自分の成長

Point! 2年間を見通した単元計画

生活科の単元の特徴を大切に、2年間を見通した指導と妥当性・信頼性のある評価を行えるよう創意工夫した単元計画を作成することが求められています。

1つの内容で1単元を構成する場合と、複数の内容で1単元を構成する場合が考えられ、複数内容を組み合わせる場合は、各内容に示された資質・能力の一部が単元から欠けることがないようにしましょう。

2 学習評価の進め方



3 育成を目指す資質・能力を踏まえた評価規準の作成のポイント (具体例)

第1学年 内容(9)「自分の成長」 単元名「思い出すごろく」をつくってあそぼう

(1) 単元の目標

書きためてきた「思い出カード」をもとに「思い出すごろく」をつくって遊ぶ活動を通して、過去と現在の

自分を比較し、自分自身が成長していることや様々な人が自分の成長を支えてくれていることに気付くと

ともに、これからの期待をもって意欲的に生活できるようにする。

思考力、判断力、表現力の基礎 知識及び技能の基礎 学びに向かう力、人間性等

Check!

単元の目標は育成を目指す資質・能力を具体的・構造的に示したものであり、これを踏まえて単元の評価規準を作成します。

(2) 単元の評価規準

単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	書きためてきた「思い出カード」をもとに「思い出すごろく」をつくって遊ぶ活動を通して、自分自身が成長していることや様々な人が自分の成長を支えてくれていることに気付いている。	書きためてきた「思い出カード」をもとに「思い出すごろく」をつくって遊ぶ活動を通して、過去と現在の自分を比較している。	書きためてきた「思い出すごろく」をつくって遊ぶ活動を通して、これからの期待をもって意欲的に生活しようとしている。
1	①1年間の学校生活において、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどに気付いている。	Point! 評価として学習状況を見取る時期や場面を精選します。	①つくりたい「思い出すごろく」に合わせて、書きためた「思い出カード」から必要な出来事を選ぼうとしている。
2	②友達と一緒に成長してきた自分自身や自分の成長を喜んでくれる友達の存在に気付いている。	①過去の自分と現在の自分を比べながら、自分らしさや成長し続ける自分を捉えている。	

学習指導要領解説生活編における内容(9)に関する資質・能力の記載事項		
知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
体が大きくなるなどして心も体も成長したこと、技能が習熟し様々なことができるようになったこと、自分の役目が増え役目を果たすことができるようになったことなどに気付くことである。	現在の自分を見つめ、過去の自分と比べることで、自分らしさや成長し続ける自分を実感することである。また、自分の成長を支えてくれた様々な人の存在、自分の成長についての様々な人との関わりを明らかにすることである。	成長した自分を実感し、それを支えてくれた人に対する感謝の気持ちをもつとともに、成長の喜びがさらなる成長を願う心につながっていくことである。それらは、それぞれの目標に向けて努力したり挑戦したりして主体的に関わるなど、意欲的に活動する姿になって表れてくる。
具体的な内容のまとまりごとの評価規準(例)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分の成長を支えてくれた人々の存在や自分との関わりに気付いている。	・過去の自分と現在の自分を比べながら、自分の成長を捉えている。	・知りたいことに合わせて、必要な手掛かりを見付けたり、集めたりしようとしている。

Check!

単元や小単元における評価規準は、具体的な児童の姿として作成することが大切です。



Check!

単元全体を俯瞰し、評価の観点や評価の場面に偏りがある場合は、必要に応じて単元計画や評価規準等の見直しを行いましょう。評価規準ありきの活動にならないようにしましょう。

「小単元の評価規準」の作成

学習指導要領解説において、「各内容に示された資質・能力に関する記述」を確認するとともに、上記の表にある「具体的な内容のまとまりごとの評価規準(例)」を参考に、小単元の評価規準を作成します。

「知識・技能」	①気付きが自覚されること②個別の気付きが相互に関連付くこと③対象のみならず自分自身についての気付きが生まれることを気付きの質の高まりとして見取ることが大切である。また、生活上必要な習慣や技能については、特定の習慣や技能を取り出して指導するのではなく、思いや願いを実現する過程において身に付けていくものであることに留意する必要がある。	Point! 複数の内容で1単元を構成する場合、これらが評価規準の作成のポイントになります。 1内容1単元構成の際も参考になります。
	知識に関する評価規準(例)「〇〇に気付いている」、「〇〇が分かっている」など ※ 〇〇には、気付きなど知識の基礎の具体を記述する。	
「思考・判断・表現」	技能に関する評価規準(例)「△△において(の際)、〇〇している」など ※ △△には学習活動を、〇〇には学習指導要領解説生活編(P14)に示した習慣や技能を参考にして、具体を記述する。	Point! 複数の内容で1単元を構成する場合、これらが評価規準の作成のポイントになります。 1内容1単元構成の際も参考になります。
	①見付ける、②比べる、③たとえる、などと示された分析的に考えること、④試す、⑤見通す、⑥工夫する、などと示された創造的に考えることを踏まえる必要がある。	
「主体的な取組の態度」	「思考・判断・表現」に関する評価規準(例)「〇〇して(しながら)、△△している」など ※ 〇〇には、具体的な学習活動において期待する思考を記述する。 見付けて、比べて、たとえて、試して、見通して、工夫して…など ※ △△には具体的な児童の姿を記述する。 観察している、関わっている、記録している、方法を決めている、表している、集めている、楽しんでいる…など	Point! 複数の内容で1単元を構成する場合、これらが評価規準の作成のポイントになります。 1内容1単元構成の際も参考になります。
	①粘り強さ、②学習の調整、③実感や自信などを踏まえる必要がある。	
	「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準(例)「〇〇し、△△しようとしている」など ※ 具体的な学習活動に即して、〇〇には、①粘り強さ、②学習の調整、③実感や自信、に関して具体的に表したものを、△△には具体的な児童の姿を記述する。	



4 単元における指導と評価の例(単元名「思い出すごろく」をつくって遊ぼう)

(1) 指導と評価の計画

観点別学習状況の評価を行い、児童の学習改善や教師の指導改善につなげます。

小単元名(時間)	学習活動	評価規準	評価方法
1 「思い出すごろく」をつくろう(4)	・頑張ったことやうれしかったことについて4月から書きためてきた「思い出カード」から、入学以降の出来事を振り返る。 ・「思い出カード」から特に思い出に残っている出来事を選び、それを月ごとの台紙に貼ってつなげ、「思い出すごろく」をつくる。	知① 態①	・行動観察、 発言分析 ・行動観察、 発言分析
2 「思い出すごろく」で友達と遊ぼう(4)	・グループごとに「思い出すごろく」で遊ぶ。 ・友達が選んだ思い出に対する感想を「メッセージカード」を書き、それを交換しながら伝え合う。 ・自分の「思い出すごろく」に貼る。 ※上記の活動の流れを繰り返して行う。	思① 知②	・行動観察、 発言 ・行動観察、 発言や表現物の分析

★B 児の行動や発言等(記録)

B 児は、同じグループの友達と一緒に「思い出すごろく」で楽しそうに遊んだ。自分の駒が止まったマスに書いてある文章を読み、「ああ、こんなことあったよね!懐かしい」等とつぶやきながら、思い出を振り返った友達の成長を喜んだりしていた。「思い出すごろく」で遊んだ後、友達からもらった「メッセージカード」には、音楽の学習に関係することが書かれていた。入学した頃の B 児が音楽に苦手意識を持っていたことを知っていたのである。D 児の「B 児と一緒に練習したから、ぼくも音楽が好きになりました」という「メッセージカード」を嬉しそうに読んでいた。B 児はそのメッセージカードを該当する「思い出カード」の近くに貼っていた。

授業

★評価規準における具体的な児童の姿(想定)

- ・「思い出すごろく」で遊びながら、そのマスに書かれている友達の成長に共感している。
- ・「メッセージカード」を読みながら、自分の成長を喜んでくれる友達の存在に気付いている。
- ・友達との交流を通して、自分の成長が新たに見付かったことを喜んでいる。
- ・「メッセージカード」と「思い出カード」をつなげて考えながら、自分の成長には友達の励ましがあつたことなどに気付いている。

★評価方法…いずれも行動観察、発言や表現物の分析

(2) 学習評価と指導の改善

児童の行動や発言から、「思い出すごろく」で遊んだり「メッセージカード」を読んだりすることで、友達の成長に共感したり、自分の成長には友達の励ましがあつたことや自分の成長を喜んでくれる友達がいることに気付いていると見取ることができました。そこで、評価は B と判断しました。

例えば、本児が友達からの「メッセージカード」を貼りながら、自分の成長における友達の存在やそのよさなどについて考えてそれを台紙に書き加えたり、友達との交流を通して、「思い出カード」には書いていなかった自分の成長に新たに気付いたりすることができるので評価は A と考えられます。

そのため、教師は、この後すごろく遊びの様子を撮影した動画をもとに振り返る場を設けるとともに、気付いたことを書き加える時間を保障しました。

Point!

行動や発言を分析し、児童の学びや育ちを読み取るには、普段から児童理解に努めることも大切です。



Point!

より信頼性の高い評価となるよう、「量的な面」だけでなく、「質的な面」から捉えるように注意します。自分や対象の過去と現在、自分と他者との気付きが関連付けられ、新たな気付きが生まれているなど、単元に即して質的に高まった姿を想定する必要があります。